

各種サウンディング技術の液状化調査手法としての適用性に関する研究委員会

WG3：静的貫入試験 打合せ

平成24年度第2回 議事録

日時	平成24年12月4日(火) 13:45~16:00			場所	地盤工学会 3F会議室			
リーダー	菊池 喜昭	○	幹事	平林 弘	○	委員	國生 剛治	×
委員	後藤 政昭	○	委員	須々田 幸治	○	委員	高田 徹	○
委員	谷本 俊輔	×	委員	西村 真二	○	委員	宮坂 亨明	×
委員	室山 拓生	×	委員	利藤 房男	○			

○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席

配付資料

- 資料1 平成24年度第1回WG3議事録（案）
- 資料2 コンビネーションコーン他
- 資料3-1 地盤調査と液状化事例紹介
- 資料3-2 小規模建築物の地盤調査・補強対策の現状
- 資料3-3 コーン貫入試験ガイドライン
- 資料3-4 FDIS/IS022476-1
- 資料3-5 文献リスト

議事

1. 平成24年度第1回議事録（案）の確認
 - ・特に異論はなく、承認された。
2. 静的貫入試験の紹介
 - ・利藤委員より、コンビネーションコーン、小型土壌サンプラー、ブルコーンの紹介があった。
 - ・コンビネーションコーンとスウェーデン式サウンディングとの違いが顕著なのは、スウェーデン式サウンディングの方が周面摩擦の影響が顕著である。
 - ・コンビネーションコーンは都市機構の基準になっているのか？
→なっていない
 - ・コンビネーションコーンは現在なぜ下火であるのか？
→スウェーデン式サウンディングに価格面、調査速度の面で負けた。
支持力であれば2mまで、沈下であれば5mまでの調査となり、支持力だけで考えれば、スウェーデン式サウンディングにおける周面摩擦の影響はほとんどない。
スウェーデン式サウンディングの二重管の意味はない。
 - ・土壌サンプラーは、現在は製造中止である。
 - ・ブルコーンは10数年前、羽田沖合展開工事の時に使用された。
3. 話題提供
 - 1) 須々田委員「小規模建築物の地盤調査・補強対策の現状」
 - ・品質保証、地盤調査、地盤補強工法についての報告があった。

2) 高田委員「地盤調査と液状化事例」

- ・ CPT調査事例として、我孫子市、浦安市での調査結果の報告があった。

3) 西村委員「コーン貫入試験ガイド」

- ・ 海外の動向として、CPTの解説、結果の応用、耐震設計-液状化などが記載されているうち、目次、CPTの役割、歴史、施工機械の部分について紹介版の報告があった。
- ・ ほぼ3年ごとに改訂されている同書を地盤試験所が全訳版を出版している。

4) 幹事平林「ISO/FDIS22476-1」, 「文献リスト」

- ・ CPTに関するISOの最終投票段階の紹介があった。利藤委員より、コンビネーションコーン、小型土壌サンプラー、ブルコーンの紹介があった。
- ・ 現在改訂作業中の青本（地盤調査の方法と解説）では、ISOに沿って基準改正中であることの報告があった。
- ・ 液状化に関する文献リストの紹介があった。次回WGでは論文リストを持ち寄ることとし、支持力他の文献リストも各委員に送付することとした。

4. 次回の予定

- ・ 平成24年度第3回WGの開催

日時：平成25年1月24日（木） ~~14:00～17:00~~ 9:30～12:00

場所：3F中会議室

内容：論文リストの確認

委員会報告内容の確認

青本サウンディングの規格・基準の紹介